

3月のてんじ場たんけん

企画展「色と形のふしぎ」その2

てんじ場4階でかいさいしている企画展「色と形のふしぎ」では、色のきれいなものや形のおもしろいものを集めててんじしています。

今月は、この企画展のてんじの中から鉱物こうぶつについてしょうかいしましょう。鉱物こうぶつというのは、石の中にふくまれている「つぶ」のことです。石は、たいていの場合、何種類もの鉱物こうぶつが集まってできています。そして、たいていの場合、鉱物こうぶつの一つぶは1mm程度以下の小ささであったり、けんび鏡で見ないとわからないくらいの小ささのことが多いのですが、まれに一つぶの鉱物こうぶつが大きなサイズになることがあり、そのような大きなサイズの鉱物こうぶつは、見るだけで楽しくなるような特ちょうがあります。



ほたる石(フローライト)
大阪市立自然史博物館 所蔵

色が美しい鉱物こうぶつはたくさんあります。鉱物こうぶつの色の面白いところは、「この鉱物こうぶつはこの色」と決まっているものと、「この鉱物こうぶつはわずかな不純物ふじゆんぶつで色が変わる」というものがあり、それぞれに美しい色が見られるところです。

また、それぞれの鉱物こうぶつにはそれぞれの「決まった形すいしやう」があります。有名なのは水晶すいしやうで、えんぴつのような六角柱の形に先のとがった6枚の面すいしやうがくっついた形になります。



水晶

実さいにてんじ場で実物を観察して、色と形のふしぎを感じてみましょう。

いいやま おおみ(科学館学芸員)